

來よ也、こゝにいふ山橋は藪柑子の事也、大和本草卷十一平地木の集解に、遵生八牋、畫譜、濟世全

書、及古今集榮雅が注を引きて、俗にいふ藪柑子也といへり、玄かれども大醫博士輔仁深江、日本

根見醒醐紀延喜十八年本草和名上卷云、牡丹一名鹿韭、一名鼠姑、一名百兩金出蘇、一名白朮出釋

和名布加美久佐、一名也、末多知波奈といへり、か、れば深秘抄なる説を僻事としもいひがたし、

かくはいへども同名異物、和漢に多かり、右一名を白朮と釋藥性に、牡丹の彼一説に泥むもの、萬葉集

なる山橋を牡丹也と思ふはたがへり、この他古今集十三新撰六帖第六夫木抄二十等に見えた

る山たちばなの歌も、皆平地木をよみたるなり、こは萬葉集をよくも見ざるもの、爲にいふの

み、牡丹はふかみくさといはんこそ正しき和名なるべけれ、今さまざまなる異名を負するはう

るさし略下

〔大和本草七〕珊瑚セリヤク 園史及農圃六書ニノセタリ、葉ハ如橘及莽草刻缺アリ、莖長シテ有節夏白

小花ヲヒラキ、實南天燭ヨリ小ニ、冬ニ至テ紅ナリ、陰地ヲコノム、盆ニウヘテ愛玩ス、根ヨリ叢生

ス、二三月可分種、寒ト日ヲ畏ル、十月ヨリ屋下ニ置、二月ニ出スベシ、陰地ニ宜シ、日ヲ畏ル、本草綱

目雜草中有百兩金、恐與此同物歟、

〔大和本草十一〕平地木 又號小青樹、通仙木、遵生八牋畫譜ナド、中華ノ書ニノセタリ、和名ヤマタ

チバナ、古歌ニモヨメリ、小樹高數寸ニ不過、葉ハ枇杷葉ニ似テ、小ニシテアツシ、世俗多ク庭ニウ

ヘテ石ニ伴ハシム、古今集榮雅注曰、山タチ花世俗ニヤブカウジト云、實アカシ、髮ソギノ時、山菅

ニソフル草ナリ、今案筑紫ニテヤブカウジト云物ハ別ナリ、龔雲林ガ濟世全書曰、小青樹又號通

仙木、通根莖葉而陰乾能焙、煎用治疝氣、是平地木ナリ、

茅藤菓、京都ノ方言カラタチ花ト云、筑紫ニテヤブカウジト云モノ也、花史ニ出タリ、實ヲマク

ベシ、高サ一尺ニ不過、陰地ヲコノミ、兩年ニ長ジテミノル、實ハ冬赤シ、葉ハセバクシテ如竹、可ニ玩